



# 広島西ロータリークラブ会報

No. 2038

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

例会日・木曜日 12:30~13:30

例会場・ANAクラウンプラザホテル広島

会長 井原 俊彦

幹事 香川 基吉

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78

リーガロイヤルホテル広島13F

TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870

E-mail:hwrc@godorc.gr.jp

広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Reach Within to Embrace Humanity  
「こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために」

本年度会長テーマ  
「ユーモアでロータリーに  
もっともっと笑顔を」

## 「会員増強及び拡大月間」「平和月間」

2011年8月4日 第2014回例会

### ◆ 会長時間 ◆

井原会長



皆さんこんにちは。今日はロータリーとスマイルについてのべさせていただきます。スマイルとは“声を出さずに笑う”ことです。多民族国家アメリカ、そして狭い所に異なる民族がひしめきあうヨーロッパでも目と目を合わせる eye contact が頻繁に行われます。その時にニッコリほほえむ即ち smile が出るのです。敵ではないですよ、悪意はありませんよという意味表示なんですね。安全な島国に住んできた我々日本人は知らない者同士が顔を合わせてもほほえむという事は余り無いですね。人とすれ違って相手の顔を見ないで目をそらす社会ですから eye contact は定着しません。たまたま目が合ってもすぐに“ニッコ”とできる能力が開発されません。

アメリカの小学校で記念撮影をしようとした時、アメリカ人の子供達は小さい頃からほほえむ事を訓練されているのですぐに笑顔を作れるのに、日本人の子供達をニッコリさせるために3回も撮り直したという話があります。そういえば我が広島西ロータリークラブでも笑った写真を撮ろうとした時にニッコリが出来にくかった人が何人かいましたね。

アメリカの小学校で記念撮影をしようとした時、アメリカ人の子供達は小さい頃からほほえむ事を訓練されているのですぐに笑顔を作れるのに、日本人の子供達をニッコリさせるために3回も撮り直したという話があります。そういえば我が広島西ロータリークラブでも笑った写真を撮ろうとした時にニッコリが出来にくかった人が何人かいましたね。

我々は一人で散歩している場合は無視されますが、可愛い犬を連れていていると犬に対してですがニコッとされることが多いですね。可愛い赤ちゃんや幼児を連れてた若いお母さんにはこれも赤ちゃんにですがほほえみますね。これはどうことでしょうか？

ところで、この後始まるスマイルボックスというのは、何らかの奉仕活動に使うお金をニコニコと笑ってあるいは苦笑いをして拠金するものですが、日本では1936年に東京RCでニコニコ箱として始まったようです。なんと smile box は和製英語なんです。ちなみにアメリカでは smile box とは言わず、目標を定めた募金箱の場合を chest box (資金箱) といい、我々のスマン box に相当するものは fine box (けっこうな箱) というそうです。

最後に、小学校では先生が教室に入って来て学習を始める前に“皆さんおはようございます”と言うと、子供達は“おはようございます”と大きな声で返事します。smile の代わりに言葉による挨拶ですが好意のしるしでもあります。大学では教官と学生がお互いに何も言わずに授業が始まるそうです。

我々のロータリーでは小学校時代に帰ってまず好意を示す smile、そして友情を示す“ヤーッと 言おうよ”で始めましょう。

ありがとうございました。

## ☒ 物故会員に黙祷

広島中央RC 砂田 龍吾 会員が7月29日にご逝去されましたので謹んでお知らせいたします。  
(享年44歳)

## ☒ ガバナー公式訪問

田村泰三ガバナー、田村邦夫随員幹事、久笠信雄グループ7ガバナー補佐が当例会に訪問されました。



会長幹事  
懇談会にて



例会場にて

## ☒ 米山功労者感謝状贈呈

児玉 裕志 会員 (第2回マルチプル)



## ☒ ガバナー卓話終了後、お礼及び挨拶→ 目録贈呈、随員幹事記念品贈呈

## ● 会務報告

香川(基) 幹事

※ロータリーレートが8月1日より80円(現行82円)に変更になります。

※例会終了後、ガバナーを囲んでのフォーラムを3階アカシアにて開催いたしますので、ご出席をお願いします。

## ● 委員会報告

### 出席報告 梅田委員長

本日(8月4日・木曜日)

会員数 83名 出席者 70名

欠席者 13名 ご来客 3名

ご来賓 3名 ゲスト 3名

計 79名

前々回(7月21日・木曜日)

出席率 100%



## ※ 新世代・インターアクト委員会 荒川委員長 鈴峯学園インターアクトクラブ活動報告 及び上期育成費(目録)贈呈



大崎ゆめさん、武田磨美さん

こんにちは、私たちは、鈴峯学園インターアクトクラブの部員です。今日は、このような会合にお招きいただきありがとうございました。

ここで私たちのインターアクトクラブが日頃どのような活動をしているかを紹介させていただきます。

定期的に行っているものには、つぎのようなものがあります。

1. 特別養護老人ホーム「千歳園」の訪問  
ここでは、お年よりの皆さんのお話し相手になっています。
2. 募金活動への協力  
春と秋の年2回行われるあしなが募金運動や、 Bangladesh の支援団体であるポンドゥーが主催する募金活動に参加しています。  
また今年も8月下旬に行われる24時間テレビにも参加する予定です。
3. 献血のお手伝い  
年に1回学校で行っています。今年は、12月に行う予定です。全校生徒へ呼びかけて、協力してもらっています。
4. 広島市社会福祉協議会の行事への参加

広島市の社会福祉協議会主催のボランティア活動に参加するものです。この夏もたくさんのインターアクターが参加します。

#### 5. バングラデシュのスズガミネ校維持のための募金活動

スズガミネ校は、2000年にインターアクトクラブがバングラデシュに作ったプレ・スクールで、小学校入学前の子どもたちに「読み、書き、計算」を教えています。この学校を維持するためには、年間約5万円かかります。そこで、全体に呼びかけて、デポジットになっている自動販売機の紙コップやペットボトルを寄付してもらい、それを換金しています。

#### 6. 使用済み切手集め

学校の生徒がある程度集まった段階で、ワールドフレンドシップセンターというところへ送っています。これは、発展途上国の子どもたちの予防接種代などに使う費用の一部となっています。

その他、毎週金曜日に例会を行い、私たちにどのようなことができるのかを話しあいながら、活動計画を立てています。

これらが、私たちインターアクトクラブの主な活動です。このような活動を通じて、私たちは、さまざまなことを学びました。人への思いやりや感謝の心など、日ごろはあまり気づかなかったようなこともいろいろあります。

さて、これらの活動ができるのは、1972年の創立以来広島西ロータリークラブのみなさまのご支援のおかげです。韓国研修や指導者講習会、地区大会など多くの行事にも参加させていただき大変感謝しています。今後とも、私たち鈴峯学園インターアクトクラブへのご支援を、よろしくお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。



#### ✳️ 姉妹クラブ友好委員会 香川(浩)副委員長 台南RC短期青少年交換受入について

姉妹クラブ友好委員会からのご報告です。

台南RCとの短期交換留学生の昨年度分の受入れがこの8月21日～27日に行われます。3名とも男子で高校1年生2名、高校2年生1名です。先日ご家族が台南へ短期留学された安部家、柴田家、原家にホームステイをお願いしております。今回のスケジュールは8月21日夜広島空港に到着後、歓迎会・マツダスタジアム・大和ミュージアム・宮島・平和公園等々見学をしていただくように予定しております。主に私ども姉妹クラブ友好委員会、足らずを国際交流委員会にお手伝い頂きますが、8月25日マツダスタジアムでのカープ観戦等々、会員の皆様のご協力もお願いする場合が出て来ると考えられます。是非とも会員皆さんの積極的なご参加をよろしくお願い致します。

#### ✳️ 親睦活動委員会 岡田委員長 夜間例会お礼

先週の7月28日、うを久で夜間例会及び会員懇親会が開催されました。

今年は73名と数多くの皆様にご参加いただき、和気藹々とした楽しい懇親会となりました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

執行部の余興はウエストパープルサウンズの演奏で、新会員の余興は当委員会の面々も参加して、どちらも皆さんに楽しんでいただけたのではないかと思います。

難点は私の準備の至らなさ、司会進行の不手際であったと反省しきりです。

次回の忘年家族会はもっとしっかり準備してシャンとした進行を心掛けますが、今回と変わらず温かい目で見守っていただければ幸いです。

以上で会員懇親会の報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

#### 🎂 祝 8月お誕生日おめでとうございます。

(13名)

三浦君	箕 君	鮫島君
沖 君	松岡(輝)君	藤原君
尾形君	松岡(幹)君	木村君
山木君	加藤君	田戸君
米山君		



## ● スマイルボックス SAA 斉藤委員長

### 😊 田村泰三ガバナー

本日ご来賓としてお越しの田村ガバナーより「寸志」を頂戴しております。どうもありがとうございました。

### 😊 濱井順三君・金一封（7月29日中国新聞）

7月29日付中国新聞に、「故 濱井信三 元市長の著書『原爆市長』復刻・被災地へ『遺族や有志企画「復興へ希望を」』という見出しで大きく記事が出ていました。実録として書き残したものが再び見直され復刻されたことについて長男の濱井順三さんは、「被災地の希望の未来への回生の一助になれば、父も一番喜ぶと思う」とコメントされています。また本日、田村ガバナーと広島西ロータリークラブに各一冊ずつ復刻版「原爆市長」ご寄贈いただいております。

### 😊 井原俊彦君、川西祐二君、香川基吉君、梶本政明君、前橋寛君、濱井順三君、村上昇君、大本和則君、金本善行君、柴田脩司君、中岡弘夫君、斉藤昭一君、岡田有博君、松岡輝明君、原敬君、教蓮幸生君、松岡幹太郎君、沖清君、豊岡博夫君、中山敬一君、神尾昌則君、佐伯正夫君、大植伸君、梶泰起君、羽井紀行君、坂田恵希君、村上智亮君

7月28日に開催された「うを久」での会員懇親会では、井原会長をはじめとする執行部と“ウエスト・パープル・サウンズ”の皆さんに素晴らしい楽器演奏と美声を披露していただきました。また、羽井担当理事と岡田委員長をはじめとする親睦活動委員会及び、新会員の皆さんによる「西ロータリー笑点・大喜利」も大変場を盛り上げていただきました。また、演奏中に一人だけ美しいお姉さんとチークを踊ってニヤケテおられました垂井さんにもご出宝いただきます。そして、「うを久」の坂田さん、素敵なアロハシャツを安価にご提供くださった「フジセンイ」の村上智亮さんもお出宝お願いします。

## ● スマンボックス

### 😊 羽井紀行君

夜間例会を欠席された担当理事の羽井君はスマンボックスの方へお運びください。

## ■ ガバナー卓話



国際ロータリー第2710地区ガバナー

田村 泰三氏

今年度の地区のガバナーをつとめさせていただきまことになりました柳井ロータリークラブの田村泰三と申します。広島西ロータリークラブの皆さんには、たくさんの私にとりましては大先輩がいらっしゃいます。諏訪パストガバナーの年度には、ガバナー補佐として地区の運営に加えていただきました。私にとりましては、大変色んな皆さん方に指導を受けました。そういうクラブに暖かくお迎えをいただいて本当にありがとうございます。私にとりまして本日の訪問は、本当に身の引き締まる思いでございます。先程はまた原爆市長の歴史的な復刻された著書をいただきまして本当に感謝しています。ありがとうございます。私たちの地区は広島県、山口県の地区でございまして広島市が含まれております。国際ロータリーは世界の平和をめざすということでございましてロータリーではかつて広島平和会議が開かれたことがございます。そしてそういうことですね、実は、去年の広島で開かれましたインターアクトの会で広島平和祈念館の館長さんの話しがございまして、その時に祈念館にサインをする中で皆さんが世界のリーダーが平和のメッセージを書いておられます。そのメッセージの中には、皆さんに紹介してより意義のあるものと館長さんがいわれまして、その時はカルザイ大統領の話をされたと思うんです。これを聞きましてせっかく広島があるし先程の濱井市長が書かれましたメッセージの様に平和に向けてのメッセージが沢山あるんじゃないかと思ひましてパストガバナーにも御相談しましたら国際ロータリーの元会長がここに訪れて色んなメッセージを残しておられる。そういうことを聞きましたので是非館長さんをお願いしてロータリー関係の人がおられるのなら世界に対する広島で平和の願いを書いておられるメッセージを皆さんに伝えたいと思ひまして、それを集めてそして国際ロータリーの友愛の広場というのがあるんです。そこにブースを出すことにしました。このモデル

は、実は今年の三月に大きな地震、津波の被害を受けました岩手、宮城の地区が長年にわたりましてブースを出してこられたことに、それを真似しまして広島の名前を是非世界に出したいと地区としてそういうメッセージを出したいと思ひましてやりました。その時には、諏訪パストガバナーにもお手伝いをいただきまして、広島を訪れた方はたくさんおられまして今回は、隣りの隣りには今の岩手、宮城のブースがありまして、こちらの方は大変な災害の時の情報を出しておられましたので、たくさんの方が来られましたけれども、私達はそれほどでもなかったけれども、初めて出したら非常に大きな関心をもっていただいて、人は来られましたけれどもメッセージを伝えるということまではまだいってませんので、これはまだ今後も続けていきたいと思っております。そういうことでそこに訪れた国際ロータリーの方が、次の会長である現在会長エレクトであります田中作次さんが国際会長になれる時に広島で平和会議を開きたいという計画があるんだと、こういうお話がありました。ですからたぶんそういう準備が近時に始まるのではないかと思いますけれども、田中作次さんもそのブースにこられまして是非これを続けて欲しいということですので、また色々先程の被爆の体験ということ、そして平和の願いというのはやはり、この広島に大きなものが存在するわけです。今こそロータリー活動の中でも非常に大切なものではないかと考えているわけでございます。

前置きはこれくらいにしまして、最初にお話をしたいことは今年の国際ロータリーの会長であるカルヤン・バネルジー会長のRIテーマのことにしてお話をさせていただきたいと思ひます。ご存じのように ころの中を見つめよう 博愛を広げるために ころというテーマを発表されました。これは日本語に訳したものでありますけれども、Reach Within to Embrace Humanity これを訳したもので Within これは内側に届けということ、Within の中には心の中に届けということがあるんです。ですから心の中を見つめようと訳されましたけれども to Embrace Humanity ですから、to Embrace は包み込もうと Humanity ですから人類愛、人間愛をもって包み込もう、ころというテーマでございます。多少抽象的な内容ですけ

ど非常に暖かい心を受けとめたんですけれども、それでは私達はロータリー活動において具体的にはどういうことを進めればいいたろうかと、そういうことであります。皆さんそれぞれにですね、今までの御経験を踏まえてこの言葉をどのように表現しようかとかうお考え頂きたいと思ひます。このバネルジー会長はこのテーマを発表されたと思ひますがバネルジー会長は出身はインドでございます。インドからは三人目の国際会長ということでございますけれどもインドで培われた考え方というものが、この中に入っているのでありましょうし、この会長はこの出身地の近くにマハトマガンジーが近くなんだそうです。私はマハトマガンジーに大変心酔しているんだと言っておられますけれども、この言葉のころの中を見つめようということに関して、会長はこのように解説しています。それは、深く自己をかえりみずということ、ころの中を見つめようと、深く自己をかえりみずということによって、そして次の自分自身のことを考えて欲しいということのようです。かえりみずと申しますといろいろ反省しようということがあります。反省をすることによってですね、心の成長をもたらそうと、あるいは安定をもたらそうとこういう目的になると思ひますが、一日三回反省をした方がいいと、こういう教育を受けた覚えがありますし、論語の中にも三つの反省というのがあるんです。そして反省のことに色々調べてみますと広島江田島海軍兵学校には、五つの反省が五省といって教育勅語とともに学生に教えられていたと。それははせいに劣るなかりしか、げんこうに恥ずるなかりしか、気力にたくるなかりしか、努力に恨みなかりしか、不精にわたるなかりしか、ころいう言葉でございます。この言葉によって教育する精神の高さ、これを見た戦後のアメリカの海軍もビックリして、日本の五つの反省を英語に直して国に持ち帰ってアメリカの海軍の兵学校でも、利用しておると書いてありましたし、現在でも海上自衛隊でもこの五つの反省をやっておるそうであります。そしてあるロータリークラブでこの話をしましたら、年配のかたがすぐ後でおいでになりました。私は海軍兵学校の卒業生だと。同期の桜で同窓生に合うのに、その時やっぱりこの五つの反省、五省がいつも出てくる。このことを話し合っておれば、

我々は頭がぼけてこないということをおっしゃられました。この反省をするということ、こういう非常に具体的な反省をするということは、おそらく精神活動に対して非常にいい刺激があるのではないかと、このへんの検討はこれからまた深くやっていかないと解らないですが、そういう感想を聞きましてですね、なるほどその反省という作用、この会長が言いました ころの中を見つめようというのは、こういう作業ではないだろうかと思う感じのわけです。しかしまあ一方反省することによって自己を成長させるということは、一人だけではなかなか難しいことではないだろうかと思うんです。何かありまして仲間があって色々問題点を外から指摘をされながら反省をすると、こういう必要があると思いますし、一人だけではなかなか出来ず、仲間と一緒にそういうことが出来る。これは私達ロータリーで、ロータリーの親睦でたくさんの立場の違う人、職業の違う人達が一同に会することが出来ます。そして例会で集うことによって色々な話が出来、こういう風なことを通して反省という作業を私達がすることが最も重要、一人だけではなかなか難しい。そこにこのロータリークラブの活動の意義も存在するんだらうとそう思います。そして自分自身を高めて自分自身を成長させて、そして to Embrace Humanity その博愛を広げよう、それに対して博愛を広げようということは、ロータリー活動の目標としての人道的支援をしていこうというロータリー活動の目的そのものになるであろうと思います。このロータリー活動はこれが会長が言われたことだと理解したいと思います。他の人につとめる奉仕活動だけではなくて、ようは自分自身を高めるということがらがロータリーの中に存在する、この意義を認識する必要があるのではなかろうかと感じた次第であります。こういった精神の鍛練というのはなかなか私達学校を出て社会に出ますと、そういうことを受ける機会が少なくなります。考えてみますとこういったロータリー活動でしかあまりないのかもしれない。そういう意味では大切であります。そしてロータリーでは週に一回の例会に出席すると、これが非常に私達自身にも煩わしく感じたこともありましたけれども、しかしこの今のこのような心の成長をもたらすための反省の材料にしようと、反省をしよ

うという行動は、あいだが空いてしまったりしたんではなかなか効果がありません。スポーツの技術を高めたりするのも毎日の練習が必要であるように、心の問題は週に一度の例会というのは煩わしいようですがこういう状態を獲得するためには意義が深いのではないだろうか、こう考えてみたいと思っていますところです。そしてもう一つ今年度の地区のガバナーの心情といたしましてロータリーで楽しむことを学ぶという目標を掲げさせていただきました。この広島西ロータリークラブの井原会長は、笑いをもって楽しもうと、こういう目標を掲げられました。このロータリーで楽しむということは、ロータリーを私達はやっておりまして活動は楽しくなければ意味がないと思います。ただ楽しいと思っているかどうかということは自己反省で言いますと、いつも楽しくてたまらないとは思ってないようです。それをいかにすれば楽しく思えるようになるかとこれを一つ意識して勉強してみたいという意味で掲げたわけです。楽しむということは、人にとりましては持てる力を最大限に発揮するということが出来る非常に大切な条件であると思います。皆さんがよくご存じのようについこの前ですね、女子サッカーでなでしこジャパンが世界で優勝をいたしました。最後の決勝戦でもアメリカと対戦するにあたって、私自身もこれは決勝戦は勝ち目がないのではなかろうかと思っておりましたけれども女子サッカーの選手達はですね、最後の試合だから楽しんでこようとそう思って臨んだと、その試合では何度も劣勢に立ちながら挽回して最後のペナルティキック合戦で勝利をおさめました。これは、楽しんで臨み、本当に楽しんでその試合をした、そのことによってなでしこジャパンの選手達は、自分達の持てる最大の力を発揮した結果がこうだったと思います。ですから、これを見てですね、楽しもうと思えば、そういう気持ちを持って臨めば楽しむことができる、という自分の最高の状態を持つことが出来る可能性があると思いたいと思います。ただサッカーの選手もですね、それだけではなくて、それまでに非常に苦しい練習を積んでそういう精神の状態になる基礎というのは、それまでに十分に作られてこそこういう状態が得られるのかもしれない。そういう意味で、私達ロータリー活動におきまして毎週一回皆さんと一緒に例会に出席をしてこれ

だけの時間を一緒に過ごすというふうなことを続けながら、そしてこういったロータリー活動、例会に出席だけでなく色々な全てのロータリー活動を楽しんでやろうという意識を持っていけば出来るのではないかと、そういったことを皆さん方と一緒に学んでいきたいと、これを一つの目標に掲げさせていただいたわけでございます。そして、今までのセミナーにおきまして会長エレクトセミナーそれから地区協議会におきまして一つの奉仕活動として取り上げられれば検討してみたいと申し上げたのがあります。それは後のフォーラムでも出てくると思いますが、認知症の人と家族を社会として支援するというターゲットを掲げています。これをロータリー活動、奉仕活動の一つとして出来るかどうか検討してみたいと思います。ロータリー活動におきましては、毎年出来れば新しい奉仕活動の一つ加えていきたいということでありまして、もし今まで、新しいものを加えようと検討される中にその地域において必要だと、こういう認識があるなら認知症の人と家族を社会として支援する、これを考えてみたい。勿論、認知症の人は高齢化社会になりまして、私達の周辺にはたくさんそういう状況になることがあります。家族の人が在宅で介護もしているわけでありまして。皆さんと一緒に認知症の人を支えるということは、医療だとか介護に福祉に直接タッチしようということでは決してありませんで、そういう方々を周辺から社会の一員として支えるというつもりなんです。先程のサッカーの話に例えればですね、サッカーの試合には選手、コーチが中心としていますが、そこにまた観客がいます。サポーターがいて、選手達を随分支えています。これもまた大きな力になっていくんだらうと思いますが、そういう形の社会として支える気持ちを私達が持ちたい。そうすれば、認知症の治療、あるいは介護というのは本当に大変な作業であります。その作業をですね、より高めるといいますか、より強く出来るためには周囲がそれを知って支えていく必要があるだらうと、そういったこの概略の目的でお願いしたようなわけでありまして、なかなか具体的に何をすればいいかというのは出てきにくいかもしれませんが、あるロータリークラブでは家族の人が時間が取れる時には集まってもらってそこで心がなごむような歌

を聞かせてあげると非常に喜んで元気をだして、また介護に当たることが出来る、そういうことをやってきましたと、そういうクラブもありました。これが確かにその通りだと思います。それから認知症の人は徘徊ということがあります。帰る道がわからなくなって、家に帰れなくなってしまふ。そういう時にこの方は徘徊の状態ではないかということをして社会の人が気づいてそれを支援してあげられる、こういうことも社会として支援をするということに繋がるのではないかと思いますけれども、そういったことを含めてですね、ロータリークラブが皆さんと一緒に社会にそういう体制を作るために、率先して支援の先頭に立って頂きたい。行けたらいいがなと思ってお願いしているわけでございます。そしてもう一つのターゲットとしてあげましたのは東日本の災害でございます。この災害は、非常に甚大なものでありまして、私達には身近には大きな被害はありませんけれども、この支援を日本は復活するために大きな支援が長い時間まだまだ必要だと思います。ロータリーとして、私達が今まで学んできました色々な支援はこういった時の支援をどう考えて、どう行動するかということにあると思います。大きな被害を受けた人達は普通の生活に帰るというよりは、家も仕事も無くなった人達ですから、そういう人達が仕事に復帰出来る、自分達の事業が開始出来るという状態に回復する必要があると思います。ですから、ロータリーの色々な支援、義援金による支援を受けて頂いております。さらにもっと、私達ロータリークラブ、被害を受けたロータリークラブも被災地に沢山あります。そういうところと被害を受けていないロータリークラブとが人と人との繋がりをもって、そしてきめ細かな物心両面の支援をしていくというふうなことを、そういう体制を作ろうと今しております。まだ具体的な所は進んではいませんけど、そういう支援はファイブフォーワンの支援という名前を付けて今準備をしていますが、どこまで進むかわかりませんが、結局被災地とそれからそうでない所を結ぶ、そして仕事に復帰するためには同じような職業を持った同業の人、あるいはその関連の職業の人達の知恵と力をお借りして進めるようにもっていききたい、そういう支援活動を私達も今後細かく考えていきたい。これは、今年度だけでは留

まらないと思いますけども、これこそ先程申しましたようにロータリーで私達が学んできた考え方で、そして手段ですね、やり方、こういうことをここに結集出来るのではないかと今言い方は悪いかもしれませんが、絶好のロータリー活動の実行出来る状態が来ておる、こういう考え方で皆さんと一緒に臨みたいと思っているところでございます。どうか皆さん方がですね、この井原会長のもとで楽しいロータリー活動の出来る一年間を進まれるとともにですね、本当にこのロータリーの活動の意義がもっと高まるような年度にして

頂きたいと思っておるところでございます。それをお願い致しまして本日の卓話とさせて頂きたいと思っております。どうも御静聴ありがとうございました。

● 卓話予告

日時	テ ー マ
8/18(木)	国際大会に参加しよう RI第2710地区国際大会推進委員長 諏訪昭登バスターガバナー

## 2011～2012年度 広島西RCフォーラム (田村 泰三 ガバナー公式訪問に際して)

8月4日(木) 13:45～15:15

ANAクラウンプラザホテル広島3Fアカシアにおいてフォーラムが開催されました。

